

東京都における障害者スポーツ振興の取組

障害のある人もない人も、だれもがスポーツに親しむ「スポーツ都市東京」を実現

【平成28年度予算額：234億円(前年度予算額：9億円、前年比 26倍)】

平成32年(2020年)の目標

【イメージ】

障害者スポーツの競技力強化が進み、障害のあるアスリートがパラリンピック等の国際舞台で活躍している

【到達点】

・東京都が発掘・育成・強化し、2020年東京パラリンピックに出場する選手 ⇒ 25人

【イメージ】

障害者スポーツを支える人材育成が進み、地域ごとに障害者スポーツを楽しめる環境づくりが広がっている

【到達点】

・全ての区市町村で障害者スポーツを実施
・区市町村のスポーツ推進委員の少なくとも1人は、障がい者スポーツ指導員資格を取得

【イメージ】

障害者スポーツの情報発信と普及啓発が進み、障害のある人とない人の相互理解と交流が進んでいる

【到達点】

・障害者等に対する理解と積極的な手助けの気運を広めるなど、バリアフリーを推進

平成28年度の主な取組

【競技力向上】

課題：競技団体の強化

- ・2020年パラリンピックに向けた選手の発掘
- ・東京ゆかりパラリンピック出場候補者の育成強化
- ・障害者スポーツ競技団体への活動支援
- ・都内IPC公認大会増加への取組

【場の開拓】

課題：障害のある人がスポーツをする場が不足

- ・都立特別支援学校体育施設の活用
- ・障害者のスポーツ施設利用促進マニュアルの周知
- ・区市町村支援の拡充(ソフト・ハード)
- ・障害者スポーツセンターの改修

【人材育成】

課題：指導者等の人材が不足

- ・障がい者スポーツ指導員講習会・セミナーの開催
- ・障害者スポーツを支える人材の活動活性化

【理解促進・普及啓発】

課題：障害者スポーツを実際に観戦した都民は2%

- ・障害者スポーツの魅力をテレビ等の多様なメディアで発信
- ・誰もが目にする街中でのスポーツイベント開催
- ・健常者も共に楽しめるスポーツイベント「チャレスポ！TOKYO」の拡充
- ・パラリンピック体験プログラム「NO LIMITS CHALLENGE」の拡充

障害者スポーツの競技力の向上

【視点3】
競技力向上

【視点2】
場の開拓・人材育成

【視点1】
理解促進・普及啓発

障害者スポーツの普及拡大

東京都障害者スポーツ振興基金(200億円)を創設し、障害者スポーツの振興に資する施策を計画的かつ継続的に実施